

第43回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト出場

梅光学院高等学校 2年

梅田 空 さん



▲好きな手話の言葉は「寄り添う」。スピーチコンテストでも一番多く使った表現の一つ。

手話をやってみたい！ 小学校のホームルームで手話を使った名前当てゲームをしたことをきっかけに興味を持った梅田さん。転機は高校1年生、市報で見つけた手話奉仕員養成講習会でした。すぐに講習会に通い始め、始めて1年で、全国で10人だけが選ばれるスピーチコンテストに出場を果たします。しかし、周りは日常的に手話を使う人ばかり。「語彙力や経験の差に衝撃を受けまし

た」と振り返り、上達を誓います。コンテストで語ったのは、カンボジアでのボランティア経験を通して描いた、将来目指す保健師像。「過酷な環境で生きる子どもたち、十分とは言えない設備の中で、一人ひとりに真剣に向き合う医師や看護師の姿がずっと忘れられない」と話す梅田さん。相手の小さな変化にも気が付き、その人にあった支援を届けられる保健師を目指し、日々努力を重ねています。

手を携え、 支え合い、未来へー



市長コラム /
希望の風
市長の部屋



さて、もう一つの話題です。今年、韓国・釜山広域市と姉妹都市になって50周年の節目の年です。8月13日の関門海峡花火大会では記念花火を打ち上げたほか、キム副市長をはじめとする釜山広域市の皆さんをお招きしてセレモニーを行いました。今年、市民の皆さんにも下関市と釜山市を行き来していただけるよう、交流事業を行っていきます。先人たちの努力に感謝し、私たちも後世に平和で友好的な世の中を引き継いでいくために努力していきたいと思ひます。

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。私はこのたび、全国青年市長会の会長職をお受けすることになりました。就任が熊本地震直後のタイミングだったこともあり、同会の会員からの物資をとりまとめ、市民の皆さんにもお願いし、熊本への支援を行うこととしました。短い期間だったにもかかわらず、大変多くの皆さんに心温まるご協力を頂き、たくさんの支援物資やメッセージを被災地へ届けることができました。私も現地に入り、氷川町長や熊本市長からお話を伺いました。その後も、物資のほか、水の輸送や人材の派遣を続けています。市民の皆さん、ご協力本当にありがとうございます。災害はいつ起こるか分かりません。日ごろからの意識と備えがますます大切な時代になったと思います。これからも温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。